



新年度がスタートし、約二か月が過ぎました。

今年度は、職員向けの自主研修会の様子や、自立活動について紹介していきたいと思います。

「自立活動」について

【自立活動とは】

障害のある子どもの教育課程には、小・中学校の学習内容に加えて、障害による学習や生活上の困難を改善・克服するために自立活動の領域があります。

自立活動は、心身の調和的な発達の基盤に着目して学習するものであり、各教科を支える役割を担っています。

生活、国語、算数、音楽など

自立活動

一人一人の教育ニーズ
に応じた指導

【自立活動の基本】

子ども一人一人の障害や特性、心身の発達段階に即して行うのが基本です。実態把握に基づいて、課題を明確にして、ねらいや内容が決められます。

実態把握が大切です。
よいところ、得意なこと
にも注目します。

自立活動の6区分

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
-------	--------	---------	-------	-------	-----------

今後も、自立活動についての紹介や学校で行われている自立活動の実践などについても紹介していく予定です。



参考文献 文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動(幼稚部・小学部・中学部)」
 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著 下山直人監修 「知的障害特別支援学校の自立活動の指導」

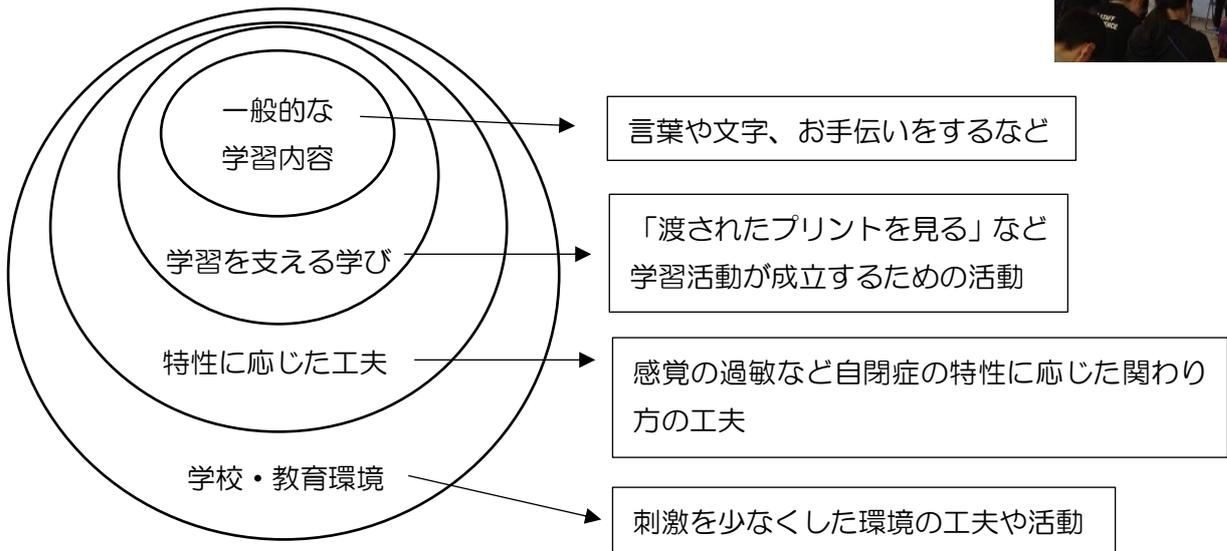
職員向け 自主研修会「みんなでやってみよう会①」



5月16日（木）に「自閉症教育の7つのキーポイント」について学習しました。概要、実際に記入、そこからの学習活動について、自立活動について困っていること、などを参加者で学び、話し合いました。7つのキーポイントについて詳しくは、参考文献を参照してください。

【概要】

なぜ「7つのキーポイント」か ～自閉症教育における学習の基本構造～



【学習活動について】

自立活動は、日常生活への「般化」の視点が大切である。

般化には、

○反応般化

特定の状況で身に付いた行動と類似した行動が増大すること

○刺激般化

特定の状況で身に付いた行動が、他の状況でもできること。つまり、身に付いた行動は同じでも、一緒に行う人や環境や場面が変わってもできることです。自立活動の担当者をかえていくことも刺激般化のひとつです。

【自立活動で困っていること】

○「一つの活動にこだわっているので、興味関心を広げたい」

→他の活動に取り組んだ後で、ご褒美として好きな活動を利用する。

→活動は同じでも素材を変えるのもよいか。

→飽きるまでずっと行う。

○「体重の急激な増加で、体や動きに影響がでてきた。どうしたらよいか。」

→養護教諭と連携をして保護者も一緒に考えていく

→「もぐもぐ記録」という食べた物の記録を付けたり、自立活動で体を動かす活動を設定する。

→支援機器も好きなので、体操動画を使って楽しみながら体を動かせるようにする。

参考文献 国立特別支援教育総合研究所編著「自閉症教育実践マスターブック」

たすくグループ編著 斎藤宇開監修 「たすくの療育 J☆sKeps™ アプローチ」

